ONE TOUCH®

ワンタッチ

ウルトラビュー™

自己検査用
グルコース測定器

取扱説明書

ワンタッチウルトラビュー™
自己検査用グルコース測定器
取扱説明書

目次

ご使用になる前に iv

安全に関する重要なお知らせ vi

- ワンタッチウルトラビュー™自己検査用グルコース測定器と専用センサーについて（各部の名称とその説明） 1
- ワンタッチウルトラビュー™のヘルプ機能（操作説明機能） 6
- 測定を開始する 8
- 採血 13
- 指先からの穿刺の準備と測定 17
- 前腕からの穿刺の準備と測定 23
- 測定結果を確認する 27
- 測定後（使用済みのセンサーとランセットの廃棄） 31
- 過去の測定記録を閲覧する 33

測定器を設定する 37
コントロールテストの実施 55
測定器具一式の保管とお手入れ 62
電池の交換方法 65
エラーメッセージとその他の画面表示について 68
測定器の測定結果と検査室の測定結果の比較 76
トラブルシューティング 78
ヘルプ画面（操作説明画面） 80
仕様 83
保証 86
索引 87

ご使用になる前に

本製品を使って血糖測定を行うに当たり、正しい取り扱いについて医師の指導を事前に必ず受けてください。本製品の取扱説明書と添付文書のほかに、ワンタッチウルトラソフト™、ワンタッチウルトラソフト™ランセット、LFSクイックセンサー®（以下、センサー）、LFSクイックセンサー®専用コントロール溶液（以下、コントロール溶液）のそれぞれの添付文書または取扱説明書もあわせてお読みください。

ワンタッチウルトラビュー™が表示する測定結果は、全血グルコース濃度に換算した値を表示する測定器に比べて、約12%値が高く表示されます。

本書にある「禁止事項」および「注意」記載項目は必ずご確認ください。血糖測定が初めての方には、事前にコントロールテストでの測定練習を行うことをお勧めします。コントロール溶液を使った測定方法については55ページを参照してください。

その他、測定器の取り扱いに関する詳細についてはワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

本製品の使用目的

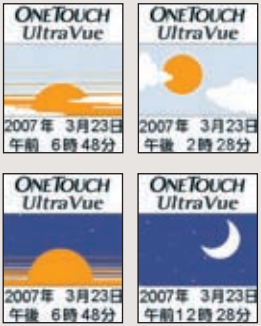
ワンタッチウルトラビュー™自己検査用グルコース測定器は、新鮮な毛細管全血中のグルコース濃度（血糖）の測定を行うためのものです。血清や血漿で測定するものではありません。センサーはD‐グルコースに特異的に反応し、血液中に存在する他の種類の糖には反応しません。ワンタッチウルトラビュー™は、糖尿病の方が自宅で、または医療従事者が医療機関で使用し、糖尿病管理の有効性をモニターする補助として使用される体外診断用のものです。センサーの添付文書に記載されている操作上の注意もあわせて参照してください。

禁止事項： 糖尿病の診断や新生児の血糖測定には使用しないでください。

測定原理

血液中のグルコースがセンサーの試薬部分にある試薬と反応すると、微量の電流が発生します。この電流の量は血液中のグルコースの量に応じて変化します。測定器はこの電流を測定することで、血糖値を算出し、その結果を表示します。また、この測定結果は測定器のメモリーに記録されます。

安全に関する重要なお知らせ



測定を行う前には必ず、次のことをご確認ください。

- **始めに測定器に表示される画面が、スタート画面の図と一致していることを確認してください（左図を参照してください）。測定器に設定されている時刻によって、始めに表示される画面の図は変化します。**

  左の画面の日時は一例です。

（例）

- **測定器の画面に表示されるコード番号が、LFS クイックセンサー®の容器ラベルに印字されているコード番号と一致していることを確認してください。**

禁止事項：糖尿病治療や血糖測定は必ず医師の指導と管理のもとで行ってください。測定結果により、自己判断で糖尿病治療を中断したり変更したりしないでください。

注意：ワンタッチウルトラビュー™は注意して取り扱ってください。測定器を落としたり、衝撃を与えないでください。

警告：実際の血糖値より高値を示すことがあるので、以下の患者には使用しないこと。
[その偽高値に基づきインスリン等の血糖降下剤を投与することにより、昏睡等の重篤な低血糖症状があらわれるおそれがある。]
・プラリドキシムヨウ化メチルを投与中の患者

ワンタッチウルトラビュー™ 自己検査用グルコース測定器

測定に必要な製品

a *ワンタッチウルトラビュー™（測定器）（単4アルカリ電池2本付）*
b *ワンタッチウルトラソフト™（穿刺器具）*
c *透明キャップ*
d *ワンタッチウルトラソフト™ ランセット（ランセット）*
e *LFSクイックセンサー®（センサー）*
f *LFSクイックセンサー®専用コントロール溶液（コントロール溶液）*

ワンタッチウルトラビュー™自己検査用グルコース測定器の箱には次の付属品が入っています。

- ワンタッチウルトラビュー™測定器本体（単4アルカリ電池2本付）
- キャリングケース*
- 取扱説明書
- 簡易取扱説明書（クイックリファレンスガイド）
- 添付文書
- お客様登録カード

* 保証用測定器の箱には付属していません。（保証に関しては86ページをご参照ください。）

注意：

- 欠品や不良品などがある場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。
- 電池ボックスのカバーを紛失した場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

別品：

- ワンタッチウルトラソフト™（透明キャップ付）
- ワンタッチウルトラソフト™ ランセット
- LFSクイックセンサー®
- LFSクイックセンサー®専用コントロール溶液

注意：測定器と関連品はお子様の手が届かないところに保管してください。
電池ボックスのカバー、電池、センサー、ランセット、ランセットの保護キャップ、コントロール溶液の容器のキャップなど、小さな部品は喉をつまらせ、窒息させる危険があります。

ワンタッチウルトラビュー™自己検査用グルコース測定器と専用センサーについて（各部の名称とその説明）

センサー挿入口
センサーを差し込むと測定器の電源が入り、測定することが可能な状態になります。

センサー排出レバー
測定後にセンサーを排出するときに使用します。

mg/dLの測定単位があらかじめ設定されています。

上ボタン・下ボタン
項目を選択したり変更したりします。

ボタンカバー

正面

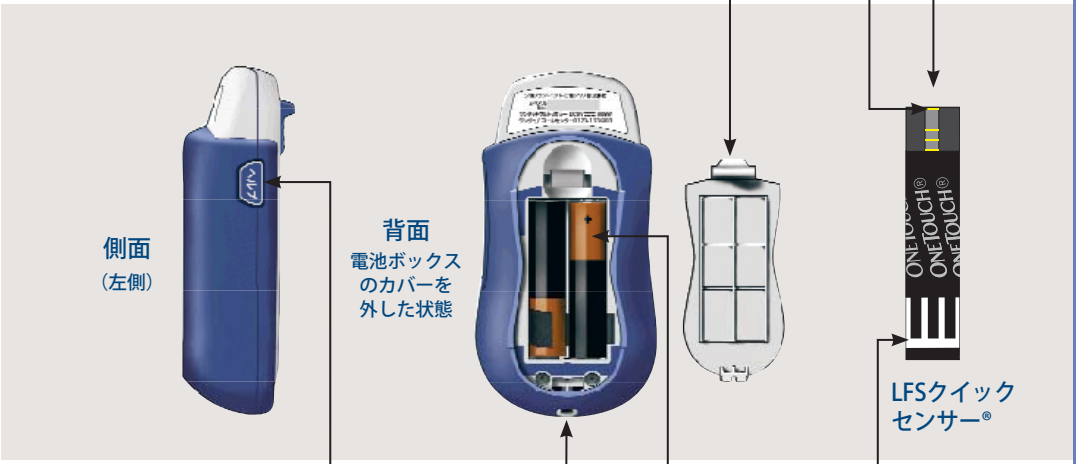
画面

側面
（右側）

データポート
医療従事者専用データ管理システムに接続するときに使用します。詳細についてはワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

▲ 上ボタンまたは下ボタンを使って
▼ 選択を行えることを示します。

入力ボタン
測定器の電源の入り／切りをします。メニューの選択を確定します。



*設定方法は40ページをご参照ください。

測定器の電源の入れ方
センサーを奥まで差し込みます。一時的にシステムチェックが行われた後、画面が表示されます。

または

測定器の電源が切れた状態で を押すと、メインメニュー画面が表示されます。

または

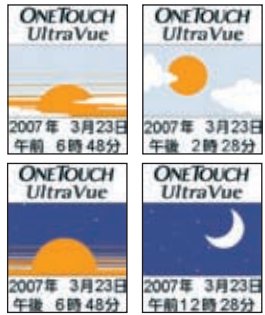
測定器の電源が切れた状態で ヘルプ を約2秒間長押しすると、ヘルプボタン設定で「穿刺表示・なし」または「穿刺表示・あり」を選択している場合は、ヘルプ画面が表示されます。

または

測定器の電源が切れた状態で ヘルプ を押すと、ヘルプボタン設定で「測定記録の呼出」を選択している場合は前回の測定記録が表示されます。

電源が入ったときは、いずれも始めにスタート画面が現れ、本製品の製品名と測定器に設定された現在の時刻が表示されます。表示された時刻が合っていない場合は44ページを参照して再設定してください。

注意：
- 始めに測定器に表示される画面が、スタート画面の図と一致していることを確認してください。（右図を参照してください。）測定器に設定されている時刻によって、始めに表示される画面の図は変化します。
- 右の画面の日時は一例です。
- スタート画面に表示欠けが見られるときは、測定器に問題がある可能性があります。ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。



測定器の画面に「電池残量が少なくなりました。」や「電池残量がなくなりました。」と表示されたり、または画面に何も表示されないときは、測定器の電池を交換してください。

測定器の電源の切り方

測定器の電源を切るには数通りの方法があります。

- 入力 を約2秒間長押しします。
- 画面が表示されている状態で測定器を3分間放置すると、測定器の電源は自動的に切れます。また、電源が切れる30秒前に「ピッ」と音が鳴ります。
- メインメニュー画面へ進み、▲ または ▼ を押して「切」を選択して 入力 を押します。
- ヘルプ を約2秒間長押しします。
- 測定開始前、または測定終了後にセンサーを取り外します。

注意： 音（音による合図）を消すときは38ページを参照して設定してください。

ワンタッチウルトラビュー™のヘルプ機能（操作説明機能）

ワンタッチウルトラビュー™には、画面上で操作の流れをイラストとアニメーションで説明するヘルプ機能（操作説明機能）が内蔵されています。

ヘルプ機能では次の操作を説明します。

- 穿刺器具の準備
- センサーの挿入とコード番号の点検
- 採血と点着
- 測定結果の確認
- センサーとランセットの廃棄

ヘルプ画面（操作説明画面）を見るには、測定器の電源が切れた状態から ヘルプ を約2秒間押してください。 ヘルプ を押すと、次の画面に進みます。前の画面に戻るには ▲ を押し、次の画面に進むには ▼ を押してください。

最後のヘルプ画面で ヘルプ を押すと、測定器の電源が切れます。

80～82ページには、測定器で表示されるヘルプ画面がすべて掲載されています。

注意：

- ヘルプボタン設定で「穿刺表示・なし」を選択している場合は、穿刺器具とランセットに関する画面は表示されません。設定方法は40ページをご参照ください。
- ヘルプボタン設定で「測定記録の呼出」を選択している場合は、ヘルプ画面の代わりに前回の測定記録が表示されます。閲覧方法は33ページを、設定方法は40ページをご参照ください。

注意：

- 測定器の電源を切らずにヘルプ画面を終了させるときは 入力 を押してください。画面はメインメニュー画面に戻ります。

- 測定中に ヘルプ を押すと、その測定手順に関連するヘルプ画面が表示されます。ヘルプボタン設定で「測定記録の呼出」を選択している場合は、ヘルプ画面および前回の測定記録は表示されません。

- 血糖測定のより詳しい説明は、本書および測定器の添付文書を参照してください。

- ヘルプ画面が表示されているときにセンサーを挿入するとコード番号の確認画面が表示され、次に血液点着画面に変わります。

測定を開始する

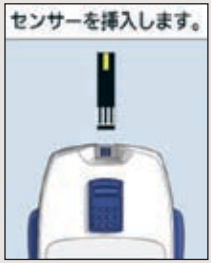
血糖測定にあたっては以下のものをご用意ください。
- ワンタッチウルトラビュー™（測定器）
- LFSクイックセンサー®（センサー）
- ワンタッチウルトラソフト™（穿刺器具）
- ワンタッチウルトラソフト™ ランセット（保護キャップが装着されたもの）（ランセット）
- LFSクイックセンサー®専用コントロール溶液（コントロール溶液）

注意：
- ワンタッチウルトラビュー™ には必ずLFSクイックセンサー®を使用してください。
- 測定器とセンサーがそれぞれ異なる温度環境下で保管されていた場合、測定器とセンサーの両方を室温に置いて、しばらくたってから測定を行ってください。
- 測定は6～44℃の動作温度範囲内で行ってください。
- 測定器を初めてお使いになる際は、血糖値目標範囲を医師に設定してもらってください。
- センサーは１回限り使用可能です。血液やコントロール溶液を点着したセンサーは再使用しないでください。
- ワンタッチウルトラビュー™は注意して取り扱ってください。測定器を落したり、衝撃を与えないでください。

注意： 測定器やご使用の関連品に問題があって測定を行うことができないときは、医師に相談するか、またはワンタッチコールセンターにお問い合わせください。測定を行うことができないことにより治療の判断が遅れ、深刻な病状を招くおそれがあります。

注意： センサーの容器には乾燥剤が入っており、これを吸ったり飲み込んだりすると有害です。また皮膚や眼が刺激されるおそれがあります。

1. 血糖測定を始める前に
石鹸と温水で手を丁寧に洗い、よくすすいでから十分に乾かしてください。



2. センサーを挿入して測定器の電源を入れます
測定器の電源が切れた状態から始めます。設定を変更したり過去の測定記録を閲覧するために測定器の電源が入っているときなどは、一旦電源を切ってください。

センサーの容器からセンサーを１枚取り出します。センサーを曲げたり、切ったり、改造することは一切行わないでください。容器から取り出したセンサーはただちに使用してください。センサーを汚さないよう、常に正しく取り扱ってください。

図のとおり、未使用のセンサーをセンサー挿入口に挿入します。必ず3本のコンタクトバーのある面を手前に向けてください。センサーは奥まで挿入してください。このとき、センサーを曲げないように気をつけてください。

センサーを正しく挿入できないときはワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

注意： センサーを挿入しても測定器の電源が入らないときは、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

スタート画面が表示されると、次にコード番号が画面に現れます。このコード番号は、センサーの容器ラベルにも印字されています。

注意：測定器の画面に表示されるコード番号とセンサーの容器ラベルに印字されているコード番号は、必ず一致していなければなりません。コード番号が一致していないときは測定前に、測定器のコード番号を変更する必要があります。測定器のコード番号を変更するには測定器からセンサーを一旦取り外し、51ページに記載された測定器のコード番号設定方法を参照してください。血糖測定中に測定器の画面でコード番号を変更することはできません。

注意： 測定器の画面に表示されるコード番号とセンサーの容器ラベルに印字されているコード番号を一致させることは、正確な測定結果を得る上でとても大切です。測定前には必ずこれらのコード番号が一致していることを確認してください。コード番号が一致していないときは51ページに記載された測定器のコード番号設定方法を参照しながら、コード番号を設定してください。

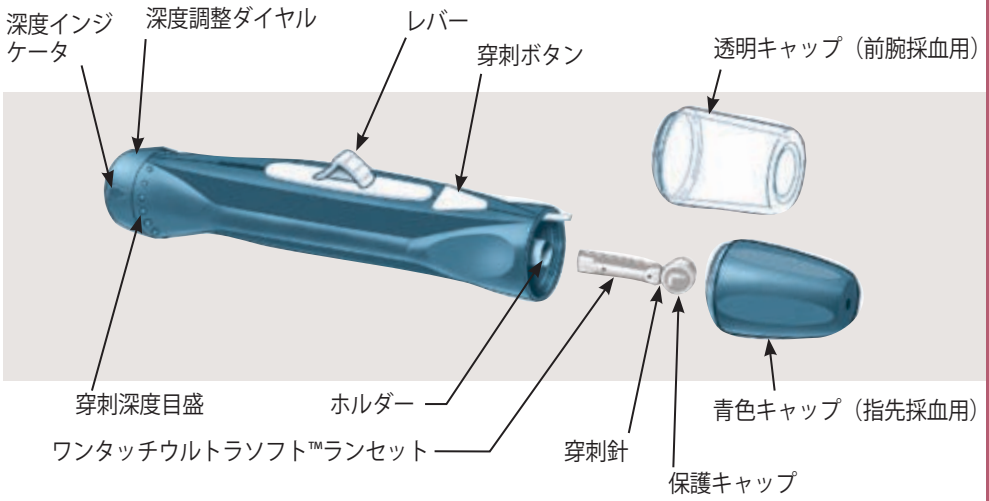
（例）

（例）

約3秒後、血液点着画面に変わります。これで測定器を使った血糖測定の準備は整いました。

採血

ワンタッチウルトラソフト™（穿刺器具）の概要



注意：ワンタッチウルトラソフト™以外の穿刺器具をご使用の際は、その穿刺器具に付属の添付文書を参照してください。

禁止事項： 感染を防ぐために
- 穿刺器具は個人の使用のみに限ります。複数の方で使用しないでください。
- ランセットは必ず新品のランセットを使用してください。ランセットは1回限り使用可能です。

注意： 感染を防ぐために
- 採血の前には必ず、石鹸と温水で穿刺部位を洗ってください。
- 測定器と穿刺器具は清潔な状態に保ってください。63〜64ページを参照してください。
- 血液で汚れた測定器やその他の関連品は、細心の注意を払って取り扱ってください。

測定のタイミング、採血部位について

ワンタッチウルトラビュー™では、指先と前腕のいずれかで採血を行うことができます。測定結果は前腕と指先とで異なる場合がありますので、前腕から採血を行う場合は事前に医師に相談してください。

測定のタイミング：	採血部位：
毎食前 または、以下の前もしくは2時間以上後に測定する場合： • 食事 • 超速効型インスリンと速効型インスリンを含有するインスリン投与 • インスリンポンプによるインスリン投与 • 運動	指先または前腕
次の例のように、血糖が急激に変化しているとき： • 食事をしてから2時間以内 • 超速効型インスリンと速効型インスリンを含有するインスリン投与から2時間以内 • インスリンポンプによるインスリン投与から2時間以内 • 運動中、または運動をしてから2時間以内 低血糖（血糖値が低い）の可能性が懸念されるとき	指先

禁止事項： 次のような場合には前腕で測定を行わないでください。

- 血糖が急激に低下していると思われるとき。（例：運動後2時間以内、超速効型インスリンや速効型インスリンを含有するインスリンを投与後、またはインスリンポンプによるインスリン投与中）低血糖やインスリン作用は、前腕から採血した血液よりも、指先から採血した血液に先に変化が現れます。
- 次の行為を行ってから2時間以内、または血糖値が急激に変化していると思われるとき。（例：食事、超速効型インスリンや速効型インスリンを含有するインスリン投与、インスリンポンプによるインスリン投与、または運動）
- 自動車の運転中など、低血糖やインスリン作用の可能性が心配されるとき。特に、無自覚性低血糖（インスリン作用による低血糖の自覚症状がない）の経験がある方はご留意ください。
- 体調不良(シックデイ) のときやストレスを感じるとき。

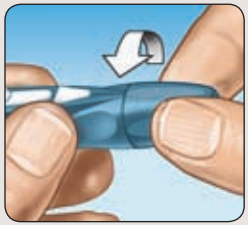
重要：採血部位は、医師と相談した上で指先または前腕のいずれかに決めてください。

穿刺部位は測定ごとに変えてください。同じ部位に何回も穿刺すると、痛みを感じたり、たこができることがあります。

前腕に打ち身がある場合は、前腕に代えて指先からの採血をおすすめします。採血部位は医師と相談した上で決めてください。

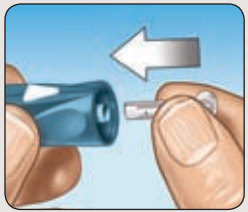
指先からの穿刺の準備と測定

1. 青色のキャップを回して外します



注意：指先から採血を行う場合は、透明キャップを使用しないでください。

2. 穿刺器具にランセットを挿入します
ランセットを穿刺器具のホルダーに奥までしっかりと取り付けます。



保護キャップをねじってランセットから外します。保護キャップは測定後に使用するので捨てないでください。保護キャップをねじるとき、ランセットそのものはねじらないでください。

3. 青色キャップを元に戻します。青色キャップが所定の位置にしっかりはまるまで回してください

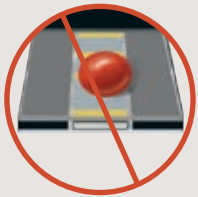
4. 穿刺の深さを調節します
必要に応じて穿刺の深さを調節します。穿刺を浅くするには深度調整ダイヤルを小さな突起の方向に回し、深くするには深度調整ダイヤルを大きな突起の方向に回します。

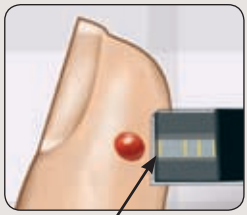
5. 穿刺器具のレバーを引きます
レバーは、「カチッ」と音がするまで後方に引いてください。ランセットを挿入したときにレバーが既にセットされている場合は「カチッ」という音がしません。

6. 指先を穿刺します
指の側部に穿刺器具をしっかりと押し当て、穿刺ボタンを押します。ボタンを押したら、指から穿刺器具を離します。

7. 血液を出します
指先を軽くマッサージし、丸みをおびた血液を出します。（1マイクロリットル（1 µL: ●）以上）

広がったり、流れ出した血液は使わないでください。その場合は、穿刺部位を乾かしてからもう一度血液を軽くしぼり出すか、または別の部位で穿刺をやり直してください。



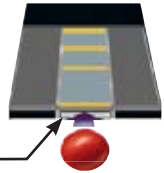


センサーに血液をつける（点着）

1. 点着の準備をします
指を曲げずにしっかりと伸ばし、測定器とセンサーを血液に近づけます。血液がセンサーの血液吸引部分の横にくるようにしてください。

センサーの平らな面には血液をつけないよう注意してください。

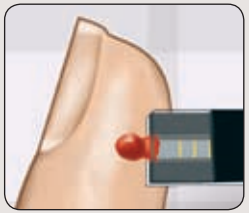
2. 血液をつけます
血液とセンサーがまっすぐになるように合わせ、センサーの血液吸引部分にある細い溝が血液に触れる寸前まで近づけます。

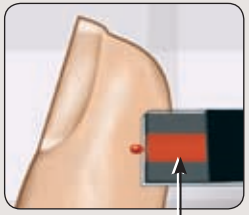


細い溝に血液をそっとつけます。

細い溝の中に血液が吸引されると、確認窓が血液で完全に染まります。

確認窓が血液で完全に染まったら、十分な量の血液が吸引されたことになります。その後、センサーを血液から離します。測定器に表示される5から1までのカウントダウンが終わるのを待ちます。





血液量が十分に点着された例

血液量が不十分な例

注意：

- センサ ーに血液をこすりつけたり、すくったりしないでください。
- センサーを指に押し付けると確認窓が完全に染まらないことがあるので、注意してください。
- 一度血液から離したセンサーには、血液を二度づけしないでください。
- 測定中（カウントダウン中）は、測定器に挿入されたセンサーを動かさないでください。
- 血液やコントロール溶液をセンサーに点着するときは、センサーの血液吸引部分を穿刺部位やコントロール溶液が入った容器の先端の下に位置しないようにしてください。下に位置すると、血液またはコントロール溶液がセンサー挿入口に流れ込み、測定器が損傷するおそれがあります。

注意：確認窓が血液で完全に染まっていない場合、エラー5メッセージが表示されるか、または測定結果が正しくない場合があります。73ページを参照してください。
この場合は使用したセンサーは処分し、新しいセンサーを使って再測定してください。

前腕からの穿刺の準備と測定

前腕からの穿刺の準備と測定

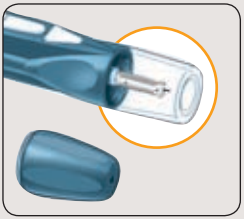
前腕から採血することによって、指先からの採血の回数を減らすことができます。指先より前腕から採血したほうが、痛みの少ない場合があります。前腕からの採血方法は、指先の場合と異なります。

前腕での採血

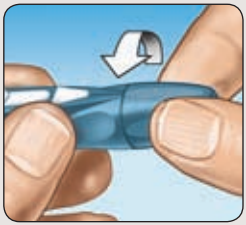
前腕の中でも、骨や毛、血管の見える部分を避け、肉付きのいい場所を選んでください。前腕の方が指先より血流の少ない場合があります。測定に十分な血液を得るため、必要に応じて採血部位を軽くマッサージしたり、温めたりして血流を促してください。

透明キャップは前腕からの採血専用です。穿刺器具の青色キャップは、透明キャップに取り替えます。

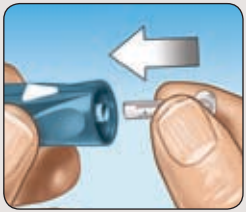
前腕



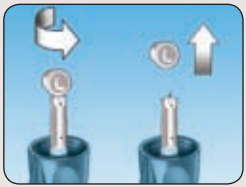
青色キャップは指先からの採血専用です。



1. 青色キャップを回して外します

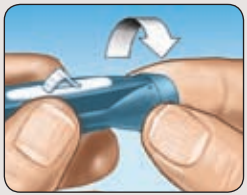


2. 穿刺器具にランセットを挿入します
ランセットを穿刺器具のホルダーに奥までしっかりと取り付けます。保護キャップをねじってランセットから外します。保護キャップは測定後に使用するので捨てないでください。保護キャップをねじるとき、ランセットそのものはねじらないでください。

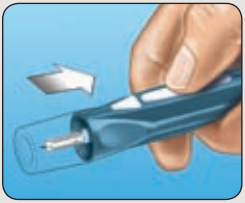


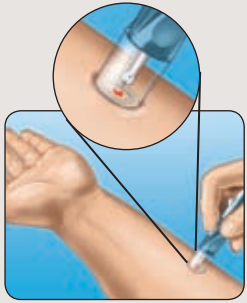
3. 透明キャップを回してはめます

4. 穿刺の深さを調節します
前腕から十分な血液を採取するには、穿刺器具の深度を深く調節する必要がある場合があります。深度調整ダイヤルを大きな突起の方に回すと、穿刺深度を深くできます。



5. 穿刺器具のレバーを引きます
レバーは、「カチッ」と音がするまで後方に引いてください。ランセットを挿入したときにレバーが既にセットされている場合は「カチッ」という音がしません。





6. 前腕を穿刺します

穿刺器具を前腕に数秒間押し当ててから穿刺ボタンを押します。

透明キャップの下に丸みをおびた血液が出てくるまで、皮膚に押し当てたままにしてください。1マイクロリットル（1 µL:●）以上の丸みをおびた血液ができるまで押し当て続けてください。

7. 穿刺器具を離します

穿刺器具を慎重に皮膚から離してください。血液を広げないよう気を付けてください。

注意：

- 前腕の場合は、測定に十分な量の血液を得るため、穿刺器具を数秒間押し当て続ける必要があります。このとき、採血部位を強くしぼりださないでください。
- 測定に十分な血液（1 µL:●）を採取するには、穿刺器具の深度を深く調節する必要がある場合があります。

前腕からの血液をつけるときは前腕を動かさずに、センサーの血液吸引部分を血液に近づけてください。

センサーに血液をつける（点着）手順については20ページ以降を参照してください。

前腕

測定結果を確認する

測定器がセンサーに吸引された血液を検出すると、5から1までのカウントダウン表示が開始されます。

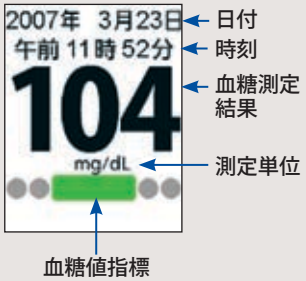
次いで、測定単位、測定日時とともに血糖値が画面に表示されます。

測定結果は測定器のメモリーに自動的に記録されます。

画面下方にはカラーの血糖値指標が表示されます。これは、測定結果が血糖値目標範囲の範囲内または範囲外にあるかを示します。

	青：	水色：	緑：	オレンジ：	赤：
（例）	目標範囲より低い	目標範囲よりやや低い	目標範囲内	目標範囲よりやや高い	目標範囲より高い

注意：測定結果が低い値（60 mg/dL以下）もしくは高い値（240 mg/dL以上）のときは、「ピッピッピッ」と音が連続して3回鳴ります。



禁止事項： カラーの血糖値指標の表示は、測定結果が医師の設定した血糖値目標範囲の範囲内、または範囲外にあるかを示すためのものです。血糖値指標により、自己判断で糖尿病治療を中断したり変更したりしないでください。

目標範囲を変更する場合は、医師にご相談ください。（医師の方へ：目標範囲を変更するときは、46ページを参照して再設定してください。）

注意： 血糖値指標は非表示にすることもできます。この方法については46ページを参照して設定してください。

注意：

- 測定器の画面には測定結果とともにmg/dLが表示されます。測定結果とともにmg/dLが表示されない場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。
- 測定結果が表示されるときは必ず日付と時刻が一緒に表示されます。表示された日付と時刻が正しく設定されていることを確認してください。日付または時刻が正しく設定されていない場合は44ページを参照して再設定するか、またはワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

エラーメッセージ

測定結果の代わりにエラーメッセージが画面に表示される場合は、68～74ページを参照してください。

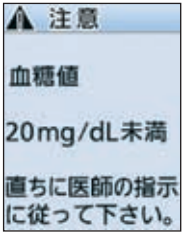
予期せぬ測定結果が出た場合

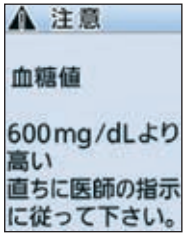
測定結果が予想を下回ったり、または上回ったり、予期せぬ測定結果が出た場合は、以下の注意を参照してください。

注意： 脱水症状

脱水症状が重症のときは、測定結果が低めになるおそれがあります。
脱水症状の自覚症状がある場合はただちに医師の指示にしたがってください。

注意： 測定結果が20 mg/dL未満の場合は、測定結果が表示されずに、「血糖値　20 mg/dL未満」というメッセージが画面に表示されます。
同様に、測定結果が600 mg/dLより高い場合は、「血糖値　600 mg/dLより高い」というメッセージが表示されます。
いずれの場合も、ただちに医師の指示にしたがってください。





注意： 予期せぬ測定結果が繰り返しでる場合

予期せぬ測定結果が繰り返しでる場合は、コントロール溶液を使ってコントロールテストを行ってください。55ページを参照してください。

本書の記載どおりに測定を行っているにもかかわらず、自覚症状と測定結果が合わない場合は、ただちに医師の指示にしたがってください。自覚症状を無視したり、医師に相談なく糖尿病治療を変更しないでください。

注意： 動作範囲値外のヘマトクリット値

ヘマトクリット値（血液に占める赤血球の容積を示すパーセンテージ）が高い場合（55%を超える）、または低い場合（30%未満）は、正確な測定結果が得られない可能性があります。

測定後（使用済みのセンサーとランセットの廃棄）

使用済みセンサーを取り出す

測定結果が出た後、廃棄用容器に向けて測定器を傾け、排出レバーを押すとセンサーが排出されます。センサーが排出されると測定器の電源は自動的に切れます。

注意： 測定器からセンサーが排出されない場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

注意： センサーを排出するときには、血液が飛び散らないよう注意して、廃棄用容器の中に向けてセンサーを排出してください。

使用済みランセットを取り外す

使用済みランセットの先端に保護キャップをはめる場合は、まず穿刺器具のキャップを回して外します。そしてランセットの保護キャップを固い台に置き、ランセットの先端を保護キャップ中にはめます。

使用済みランセットを取り外すには、穿刺器具を身体から遠ざけて下に向けます。ここで一度穿刺ボタンを押して、穿刺器具が穿刺可能な状態にセットされていないことを確認してください。レバーを前方にスライドさせるとランセットが出てきます。ランセットを取り外したらレバーを元の位置に戻し、穿刺器具のキャップをはめます。

使用済みランセットとセンサーの廃棄

誤って使用済みのランセットでの針刺しを起こさないために、使用後は必ず使用済みのランセットを処分する必要があります。使用済みのセンサーやランセットは、地域によっては感染性廃棄物とみなされることがあります。廃棄にあたっては必ずお住まいの地区の条例等にしたがってください。

過去の測定記録を閲覧する

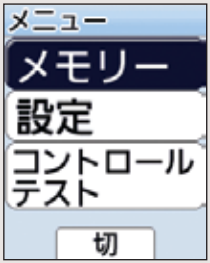
測定器には過去の血糖測定結果およびコントロール測定結果が600件まで記録されます。メモリーが600件を越えると、新しい測定結果が追加されるときに最も古い測定結果の記録が消去されます。

過去の測定記録を閲覧するには次の2つの方法があります。

メモリー画面から閲覧する

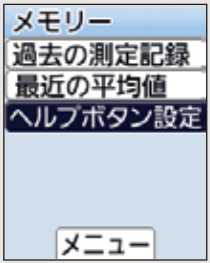
メモリー画面からの閲覧では次のことを行うことができます。

- 「過去の測定記録」を選択すると、最近の測定結果が表示されます。最大600件の測定結果を、新しいものから順に表示させることができます。
- 「最近の平均値」を選択すると、過去7日間、14日間、30日間の平均を表示させることができます。



入力を押して電源を入れます。メインメニュー画面から▲または▼を押して「メモリー」を選択し、入力を押します。

▲または▼で「過去の測定記録」、「最近の平均値」または「ヘルプボタン設定」を選びます。入力を押すと選択が確定します。



ヘルプを押して閲覧する

ヘルプボタン設定で「測定記録の呼出」を選択している場合は、ヘルプを押すと前回の測定記録が表示されます。ヘルプボタンの設定方法は40ページをご参照ください。

注意

- 最近の平均値を閲覧する場合は、メモリー画面から最近の平均値を表示させてください。
- ヘルプボタンの設定方法は40ページをご参照ください。

過去の測定記録

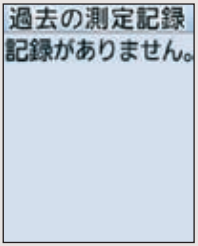
測定結果の記録は、最近のものから測定が行われた順に1件ずつ表示されます。それぞれの測定結果記録には測定日時が表示されます。カラーの血糖値指標は、記録された測定結果が血糖値目標範囲の範囲内または範囲外にあるかを示します。

過去の測定結果を表示させるには ▼ を押し、最近の測定結果を表示させるには ▲ を押します。▲ または ▼ を押し続ければ、測定結果の記録表示を素早く切り替えることができます。

メモリー画面に戻るには 入力 を押してください。

注意：

- 測定器のメモリーに測定結果が記録されていない場合には、「記録がありません。」のメッセージがメモリー画面に現れます。



- 測定結果がコントロール測定の場合には、画面の下の方の血糖値指標が表示される位置に「コントロールテスト結果」の文字がかわりに表示されます。

最近の平均値

現在の日付から過去7日間、14日間、30日間それぞれの平均値が測定器に表示されます。

「600 mg/dLより高い」と表示された測定結果は600 mg/dLとして、「20 mg/dL未満」と表示された測定結果は20 mg/dLとして平均値に含まれます。「コントロールテスト結果」として記録された測定結果は、平均値には含まれません。

メモリー画面に戻るには入力を押してください。

注意：

- 平均値は過去の測定結果を基に算出されます。平均値をそのまま糖尿病治療の判断に使用しないでください。
- 日付の設定を変えるとそれに伴って平均も変化します。平均値は、現在の日付の設定から過去7、14、30日間でそれぞれ算出されます。
- 過去7、14、30日間に測定結果がない場合には、平均値にかわって「--」が現れます。

測定器を設定する

測定器にあらかじめ設定されているもののうち、次の設定は変更することができます。

- 音－音による合図（「ピッ」という音）の入/切を設定します。38ページに進んでください。
- 画面の明るさ－画面の明るさを変更します。38ページに進んでください。
- ヘルプボタン設定－ヘルプボタンを押したときに表示される画面の種類を設定します。 40ページに進んでください。
- 日付・時刻－日付と時刻を設定します。44ページに進んでください。
- 血糖値指標

  －血糖値指標を表示または非表示に設定します。

  －血糖値目標範囲を変更します。

  46ページに進んでください。
- コード番号設定－測定器のコード番号を設定します。51ページに進んでください。
- 設定の初期化－上記すべての設定を初期設定に戻します。53ページに進んでください。

測定器を初めて使用するときや、測定器の電池を交換したときには、事前にこれらの設定を確認し、適切に再設定を行ってください。確実に再設定を完了させるためには以下の手順にしたがってください。

特に、使用中の電池を外してから約2分以内に新しい電池を装填しないと、日付・時刻設定の注意メッセージが表示されることがあります。その際は、測定器を使用する前に必ず日付・時刻が正しいかどうかを確認してください。

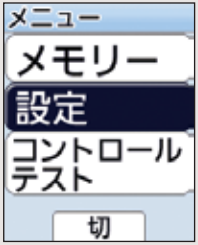
音・画面の設定

音（音による合図）の入／切、および画面の明るさを設定します。

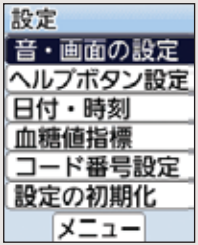
測定器を操作している際、「ピッ」という音を鳴らして合図する／お知らせする設定ができます。

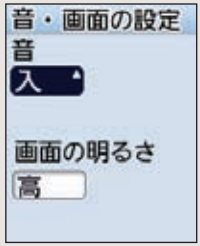
画面の明るさは「高」、「中」、「低」のいずれかに設定できます。

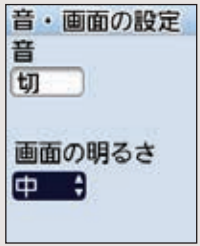
1. メインメニュー画面を表示します
測定器の電源が切れている状態か、または操作説明画面の状態から入力を押します。



2. 設定画面を表示します
メインメニュー画面から▲または▼を押して「設定」を選択します。入力を押すと選択が確定します。その後は、▲または▼を押して「音・画面の設定」を選びます。入力を押して選択を確定します。







3. 音を選択します
▲または▼を押して「入」または「切」に選択し、入力を押すと選択が確定します。

4. 画面の明るさを設定します。
続いて、▲または▼を押して「高」「中」「低」のいずれかを選択し、入力を押すと選択が確定します。

設定後、画面は設定画面に戻ります。

設定画面で▲または▼を押して「メニュー」を選択し、入力を押すとメニュー画面に戻ります。メニュー画面で▼または▼を押して「切」を選択し、入力を押すと画面が消えます。

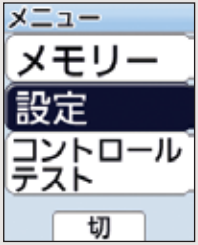
ヘルプボタンの設定

ヘルプボタンを押したときに測定器に表示されるヘルプ画面の種類を設定します。

- 穿刺表示・なし－ヘルプ画面を表示します。穿刺器具とランセットに関する画面は表示されません。
- 穿刺表示・あり－ヘルプ画面を表示します。穿刺器具とランセットに関する画面も表示されます。
- 測定記録の呼出－前回の測定記録を表示させます。

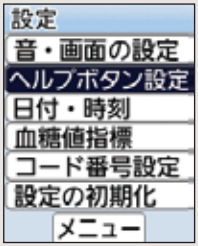
1. メインメニュー画面を表示します

測定器の電源が切れている状態か、または操作説明画面の状態から 入力 を押します。



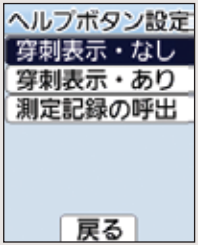
2. 設定画面を表示します

メインメニュー画面から ▲ または ▼ を押して「設定」を選択します。 入力 を押すと選択が確定します。
その後は、▲ または ▼ を押して「ヘルプボタン設定」を選びます。 入力 を押して選択を確定します。

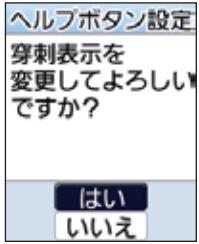


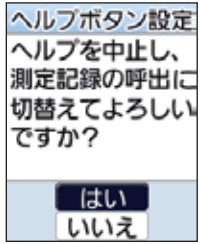
3. 表示させる画面の種類を設定します

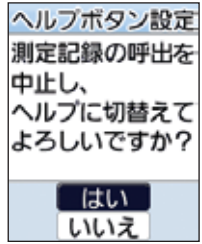
続いて、▲ または ▼ を押して「穿刺表示・なし」「穿刺表示・あり」「測定記録の呼出」のいずれかを選択し、入力 を押すと選択が確定します。



変更確認が求められるので、▲または▼を押して「はい」を選択し入力を押すと選択が確定します。



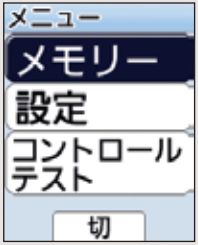




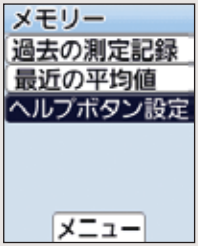
設定後、画面は設定画面に戻ります。
設定画面で▲または▼を押して「メニュー」を選択し、入力を押すとメニュー画面に戻ります。メニュー画面で▲または▼を押して「切」を選択し、入力を押すと画面が消えます。

注意：ヘルプボタン設定は、メモリー画面からも変更することができます。

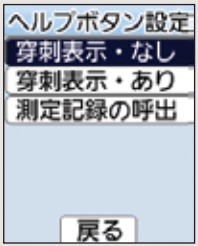
1. メインメニュー画面を表示します
測定器の電源が切れている状態か、または操作説明画面の状態から 入力 を押します。



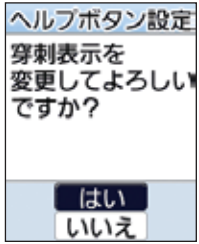
2. メモリー画面を表示します
メインメニュー画面から ▲ または ▼ を押して「メモリー」を選択します。 入力 を押すと選択が確定します。その後は、 ▲ または ▼ を押して「ヘルプボタン設定」を選びます。 入力 を押して選択を確定します。

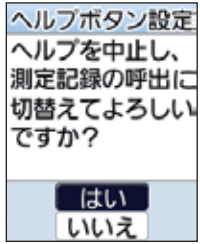


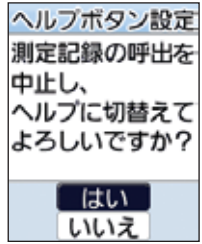
3. 表示させる画面の種類を設定します。
続いて、 ▲ または ▼ を押して「穿刺表示・なし」「穿刺表示・あり」「測定記録の呼出」のいずれかを選択し、 入力 を押すと選択が確定します。



変更確認が求められるので、▲または▼を押して「はい」を選択し入力を押すと選択が確定します。







設定後、画面はメモリー画面に戻ります。

メモリー画面で▲または▼を押して「メニュー」を選択し、入力を押すとメニュー画面に戻ります。メニュー画面で▲または▼を押して「切」を選択し、入力を押すと画面が消えます。

日付と時刻を設定する

画面には現在の日付（年、月、日）と時刻（時、分、午前・午後）が表示され、年数がハイライトされます。日付と時刻の設定がご不明な場合は、ワンタッチ コールセンターにお問い合わせください。

注意：変更する必要がない項目の場合は、入力を押して次に進んでください。

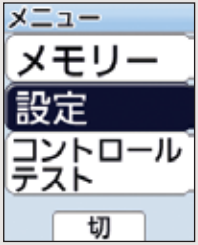
1. メインメニュー画面を表示します
測定器の電源が切れている状態か、または操作説明画面の状態から 入力 を押します。

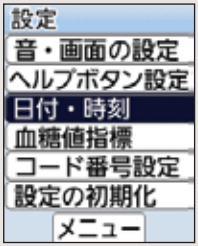
2. 設定画面を表示します
メインメニュー画面から ▲ または ▼ を押して「設定」を選択します。 入力 を押すと選択が確定します。その後は、 ▲ または ▼ を押して「日付・時刻」を選びます。 入力 を押して選択を確定します。

3. 日付（年、月、日）を設定します
年を、 ▲ または ▼ を押して変更します。
変更を確定するには 入力 を押します。

月を、 ▲ または ▼ を押して変更します。
変更を確定するには 入力 を押します。

日を、 ▲ または ▼ を押して変更します。
変更を確定するには 入力 を押します。





4. 時刻を設定します

時を、▲または▼を押して設定します。
設定を確定するには入力を押します。

分を、▲または▼を押して設定します。
設定を確定するには入力を押します。

設定後、画面は設定画面に戻ります。

設定画面で▲または▼を押して「メニュー」を選択し、入力を押すとメニュー画面に戻ります。メニュー画面で▲または▼を押して「切」を選択し、入力を押すと画面が消えます。

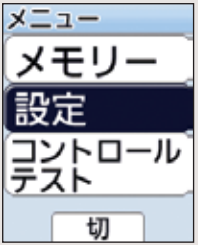
注意： 時を設定している最中に12:00に達する度、午前と午後が切り替わります。時を設定するときには、午前・午後の設定が正しいことを確認してください。

血糖値指標を設定する

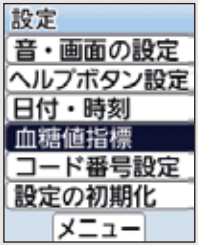
測定結果の下にカラーの血糖値指標が表示されます。これは、測定結果が目標範囲の範囲内または範囲外にあるかを示すものです。

注意： 目標範囲を変更する場合は、医師にご相談ください。

1. メインメニュー画面を表示します
測定器の電源が切れている状態か、または操作説明画面の状態から 入力 を押します。



2. 設定画面を表示します
メインメニュー画面から ▲ または ▼ を押して「設定」を選択します。 入力 を押すと選択が確定します。その後は、 ▲ または ▼ を押して「血糖値指標」を選びます。 入力 を押して選択を確定します。



3. 血糖値指標設定画面を表示します

または を押して血糖値指標メニューから「設定を変更する」を選択して を押します。

4. 血糖値指標の設定値を変更します

画面に現在設定されている設定値が表示され、「入」がハイライトされます。

注意：

- 血糖値指標は非表示にすることもできます。血糖値指標を非表示にする場合は、「入」がハイライトされた状態で または を押して「切」を選択し、 を押します。設定後、画面は設定画面に戻ります。

血糖値指標（初期設定値）		
低い	（青）	70 mg/dL以下
やや低い	（水色）	71～89 mg/dL
目標範囲	（緑）	90～130 mg/dL
やや高い	（オレンジ）	131～179 mg/dL
高い	（赤）	180 mg/dL以上

これらの範囲は、それぞれの範囲を区切る初期設定値を調整することによって変更できます。

- 下限は20 mg/dLより大きい値に設定し、上限は600 mg/dLより低い値に設定してください。
- 各限度は、一つ前の限度より大きい値に設定してください。

血糖値指標の設定値を変更するには、入力を押して、1つ目の初期設定値まで進んでください。▲または▼を押して1つ目の設定値を変更します。入力を押すと変更が確 定します。

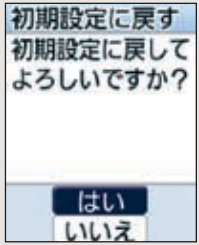
設定値を変更する必要がない場合は入力を押して次に進んでください。

この手順を繰り返して残り3つの初期設定値を変更してください。

4つの初期設定値の設定が終わったら入力を押します。

設定後、画面は設定画面に戻ります。

設定画面で▲または▼を押して「メニュー」を選択し、入力を押すとメニュー画面に戻ります。メニュー画面で▲または▼を押して「切」を選択し、入力を押すと画面が消えます。



目標範囲を初期設定値に戻すには、血糖値指標設定画面で、「初期設定に戻す」を選択し、入力を押します。初期設定に戻す確認が求められるので、▲または▼を押して「はい」を選択し、入力を押すと選択が確定します。

設定後、画面は設定画面に戻ります。

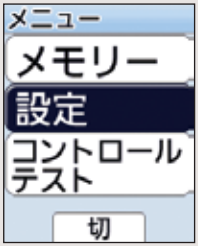
コード番号を設定する

ワンタッチウルトラビュー™にはコード番号があらかじめ設定されています。このコード番号は、LFSクイックセンサー®の容器ラベルに印字されているコード番号と一致している必要があります。

異なるコード番号を使用する必要がある場合は、医師の指導のもとでコード番号を変更してください。

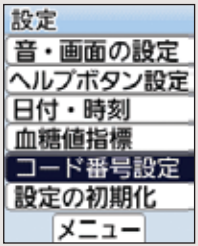
1. メインメニュー画面を表示します

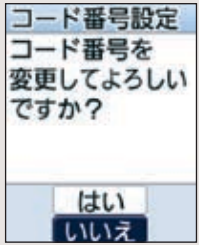
測定器の電源が切れている状態か、または操作説明画面の状態から を押します。



2. 設定画面を表示します

メインメニュー画面から または を押して「設定」を選択します。 を押すと選択が確定します。その後は、 または を押して「コード番号設定」を選びます。 を押して選択を確定します。





3. コード番号を変更します

▲または▼を押しながら1から49の間の数字を選び、入力を押します。

コード番号の変更確認が求められるので、▲または▼を押して「はい」を選択し、入力を押すと選択が確定します。設定後、画面は設定画面に戻ります。

設定画面で▲または▼を押して「メニュー」を選択し、入力を押すとメニュー画面に戻ります。メニュー画面で▲または▼を押して「切」を選択し、入力を押すと画面が消えます。

注意： コード番号は設定画面でのみ変更できます。血糖測定中またはコントロールテスト中、画面に表示されるコード番号は変更できません。

注意： 測定器の画面に表示されるコード番号とセンサーの容器ラベルに印字されているコード番号を一致させることは、正確な測定結果を得る上でとても大切です。
測定前には必ずこれらのコード番号が一致していることを確認してください。

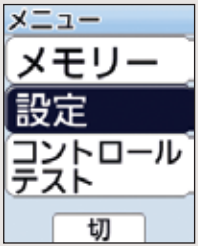
設定の初期化

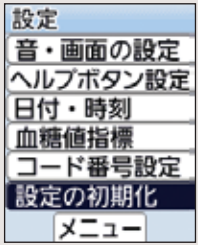
測定器の各種設定を以下の初期設定値に戻すことができます。

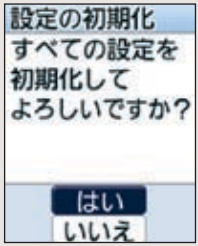
- 音ー音による合図を「入」
- 画面の明るさー画面の明るさを「中」
- ヘルプボタン設定-穿刺表示・なし
- 血糖値指標ー血糖値目標範囲を70 mg/dL、90 mg/dL、130 mg/dL、180 mg/dL
- コード番号設定ー製造時に測定器にあらかじめ設定された値（コード番号の初期設定値がご不明な場合は、ワンタッチ コールセンターまでお問い合わせください。）

1. メインメニュー画面を表示します

測定器の電源が切れている状態か、または操作説明画面の状態から を押します。







2. 設定画面を表示します

メインメニュー画面から ▲ または ▼ を押して「設定」を選択します。 入力 を押すと選択が確定します。その後は、 ▲ または ▼ を押して「設定の初期化」を選びます。 入力 を押して選択を確定します。

3. 設定の初期化を確定する

▲ または ▼ を押して「はい」を選択し、 入力 を押します。

設定後、画面は設定画面に戻ります。

設定画面で ▲ または ▼ を押して「メニュー」を選択し、 入力 を押すとメニュー画面に戻ります。メニュー画面で ▲ または ▼ を押して「切」を選択し、 入力 を押すと画面が消えます。

コントロールテストの実施

LFSクイックセンサー®専用コントロール溶液（コントロール溶液）は既知濃度のグルコースが含まれており、測定器とセンサーが正しく機能していることを確認するために使用します。

コントロールテストは次の場合に実施します。

- 血液の代わりとしてコントロール溶液を使って測定の手順を練習するとき。
- 新しいセンサーの容器を開けて使用するとき。
- 測定器またはセンサーが正しく機能していないと思われるとき。
- 予期せぬ測定結果が繰り返しでると思われるとき。（29〜30ページの説明を参照してください。）
- 測定器を落とすなどして、測定器に衝撃を与えた場合。

注意：

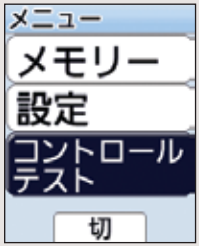
- コントロール溶液を飲み込まないでください。飲用ではありません。
- コントロール溶液は皮膚や眼を刺激するおそれがあるため、直接触れないでください。

注意：

- ワンタッチウルトラビュー™（測定器）には必ずLFSクイックセンサー®専用コントロール溶液を使用してください。
- コントロール溶液の取扱説明書も参照してください。
- コントロールテストがご不明な場合や、問題があって実施できない場合は、医師に相談するか、またはワンタッチコールセンターまでお問い合わせください。
- コントロールテストは20〜25℃で実施してください。測定を行う前に、測定器、センサー、コントロール溶液が室温になっていることを確認してください。

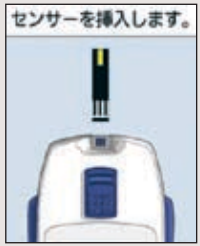
コントロールテストを行う

測定器の電源が切れた状態から始めます。設定を変更したり過去の測定記録を閲覧するために測定器の電源が入っているときは、一旦電源を切ってください。



1. 測定器の電源を入れます

入力を押してメインメニュー画面を表示します。
▲または▼を押して「コントロールテスト」を選択し、入力を押します。



センサー挿入画面が表示され、センサーの挿入が求められます。

2. センサーを挿入します

必ず3本のコンタクトバーのある面を手前に向けてください。未使用のセンサーを奥まで挿入してください。このとき、センサーを曲げないように気をつけてください。

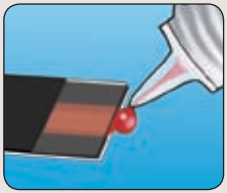
センサーを正しく挿入できないときはワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

コード番号が画面に現れます。このコード番号は、センサーの容器ラベルにも印字されています。

（例）

注意： 測定器の画面に表示されるコード番号とセンサーの容器ラベルに印字されているコード番号を一致させることは、正確な測定結果を得る上でとても大切です。測定前には必ずこれらのコード番号が一致していることを確認してください。コード番号が一致していないときは51ページに記載された測定器のコード番号設定方法を参照しながら、コード番号を設定してください。

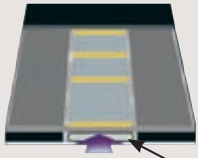
3秒後、コントロール溶液点着画面に変わります。



3. コントロール溶液を準備し、センサーに点着します

コントロールテストの前には必ずコントロール溶液の容器をよく振ってください。次に、容器のキャップを外し、最初の1滴目を捨ててください。そして、容器の先端を清潔なティッシュペーパーまたは布できれいに拭いてください。容器を上下逆さに持ってコントロール溶液を出し、溶液を落とさず、容器の先端から垂れ下がった状態のまま保持します。

垂れ下がったコントロール溶液をセンサーの血液吸引部分にある細い溝に点着させます。確認窓が溶液で完全に染まったのを確認してください。センサーの平らな面にはコントロール溶液をつけないよう注意してください。



4. コントロールテストの結果を確認します

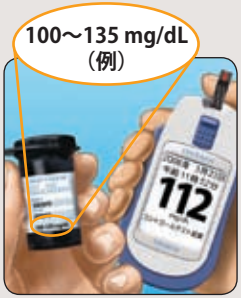
測定器がセンサーに吸引されたコントロール溶液を検出すると、5から1までのカウントダウン表示が開始されます。次いで、コントロールテストを実施した日時、測定単位、「コントロールテスト結果」という文字とともにコントロールテストの結果が画面に表示されます。

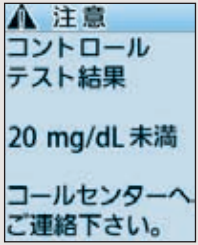
注意：

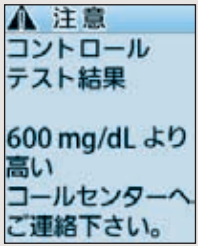
- 測定器の画面にはコントロールテストの結果とともにmg/dLが表示されます。コントロールテストの結果とともにmg/dLが表示されない場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。
- コントロールテストの結果は過去の測定記録として確認することはできますが、平均値には含まれません。

5. コントロールテストの結果が許容範囲にあるか確認します

画面に表示されるコントロールテストの結果を、センサーの容器ラベルに印字されている許容範囲と比較します。許容範囲は開封したセンサーによって異なります。コントロールテストの結果がセンサーの容器ラベルに印字されている許容範囲から外れている場合は、測定器やセンサーが正常に機能していない可能性があります。この場合は、再びコントロールテストを実施してください。







コントロールテストの結果が許容範囲から外れる原因として、次のいずれかが考えられます。

- 56～59ページに記載された操作手順を間違えた。
- コントロール溶液の使用期限が過ぎている、またはコントロール溶液が汚染されていた。
- センサーの使用期限が過ぎている、またはセンサーが損傷していた。
- 処分日を過ぎたセンサーまたはコントロール溶液を使用した。
- 測定器が故障している。

注意：

コントロールテストの結果が20 mg/dL未満の場合は、コントロールテストの結果が表示されずに、「コントロールテスト結果 20 mg/dL未満」というメッセージが画面に表示されます。同様に、コントロールテストの結果が600 mg/dLより高い場合は、「コントロールテスト結果　600 mg/dLより高い」というメッセージが画面に表示されます。このような場合は新しいセンサーを使って、再度コントロールテストを行ってください。それでも「コントロールテスト結果　20 mg/dL未満」または「コントロールテスト結果　600 mg/dLより高い」というメッセージが再び表示される場合は、測定器を使用せずにワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

注意： センサーの容器ラベルに印字されている許容範囲はコントロール溶液の範囲値です。血糖値の推奨範囲ではありません。

注意： コントロールテストの結果が、再びセンサーの容器ラベルに印字されている許容範囲から外れる場合は、お使いの測定器、センサー、またはコントロール溶液の使用を中止して、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

測定器具一式の保管とお手入れ

ワンタッチウルトラビュー™自己検査用グルコース測定器は特別なメンテナンスは必要ありません。

測定器具一式を保管する

- 使用後は必ず、キャリングケースに収納して保管してください。
- 直射日光・高温多湿を避け、30℃以下、相対湿度10～90%の場所で保管してください。

上記以外の場所で保管されていたセンサーや、冷蔵庫または冷凍庫で保管されたセンサーは使用しないでください。

センサーやコントロール溶液の汚染や劣化を防ぐため、使用後はただちにセンサー容器またはコントロール溶液容器のキャップをしっかりと締めてください。センサーは必ず開封時に入っていた容器に入れたまま保管してください。

処分日

センサーとコントロール溶液の使用期限や損傷を点検する

センサーとコントロール溶液の容器にはいずれにも使用期限が印字されています。センサーやコントロール溶液の容器を初めて開封するときには必ず、ラベルの空欄に処分日（容器の開封日に3ヶ月を足した日付）を記入してください。

注意： 容器に印字されている使用期限または処分日を過ぎたセンサーまたはコントロール溶液を使用すると正確な測定結果を得られないので、使用期限または処分日のいずれかが過ぎたものは使用しないでください。

注意： センサーの容器に損傷がある場合や、容器のキャップが開いたままになっていた場合は、その容器に入っていたセンサーは使用しないでください。このようなセンサーを使用すると、エラーメッセージが表示されたり、測定結果が高めになるおそれがあります。センサーの容器に破損があった場合はただちにワンタッチコールセンターに連絡してください。

測定器のお手入れ

測定器の表面は、水または中性洗剤をしみこませた柔らかい布で拭いてください。アルコールなどの有機溶媒は使用しないでください。

センサー挿入口やデータポートから、測定器内にごみ、ほこり、血液、コントロール溶液、水などが入らないように注意してください。測定器に洗浄液を吹きかけたり、測定器を液体に浸さないでください。

測定器の分解、修理、改造は行わないでください。

ワンタッチウルトラソフト™と透明キャップのお手入れ

これらの製品のお手入れには、水または中性洗剤をしみこませた柔らかい布で拭いてください。ワンタッチウルトラソフト™は液体に浸さないでください。

これらの製品の消毒には、家庭用漂白剤と水を1：10の比率で混ぜた消毒液を使用してください。この消毒液を柔らかい布にしみこませ、ワンタッチウルトラソフト™を拭きます。キャップだけであれば消毒液に30分間浸すこともできます。消毒後、水ですすぎ、完全に乾かしてください。

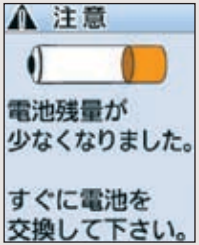
電池の交換方法

ワンタッチウルトラビュー™には、単4アルカリ乾電池2本を使用します。交換用の電池は、一般的な電池を取り扱っている店でご購入できます。測定器にはあらかじめ2本の電池が装填されています。

電池残量が少ない場合

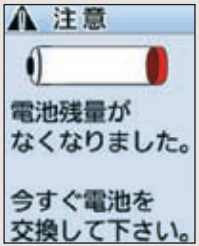
測定器の電源を入れると「電池残量が少なくなりました。」というメッセージが画面に表示され、電池残量の状態をお知らせします。

「電池残量が少なくなりました。」というメッセージが最初に表示されてから、20回程度の測定を行うことができますが、できるだけ早く新しい電池に交換してください。



電池残量がなくなった場合

測定を行うための電池が残っていないと「電池残量がなくなりました。」というメッセージが画面に表示されます。この場合は、測定器を使用するために新しい電池に交換する必要があります。



電池切れの場合

電池残量が完全になくなると、測定器の電源が入りません。この場合は、測定器を使用するために新しい電池に交換する必要があります。

電池を交換する

1. 使用中の電池を取り外します

測定器の電源を切った状態で電池交換を始めます。電池ボックスのカバーを、つまみを押しながら持ち上げて開けます。

電池ボックス内の黒いリボンを上に引っぱって、使用中の電池を取り出します。

注意： 感電を防ぐためUSBケーブルで本製品がパソコンに接続されているときは、電池を交換したり、電池ボックスのカバーが外れた状態で測定器を使用したりしないでください。

2. 新しい電池を装填します

黒いリボンが下になるように、単4アルカリ乾電池2本を装填します。プラス（+）とマイナス（-）の記号を目印にして電池を装填ください。

電池ボックスのカバーをもとに戻し、カバーのつまみを電池ボックスの溝に差し込みます。カバーは、「カチッ」と音がしてつまみがもとの状態にはまるまで押し込んでください。

電池を交換しても同じメッセージが再び表示されるときや、電源を入れても測定器の画面に何も表示されないときは、電池が正しく装填されているか確認してください。新しい電池を正しく装填しているにもかかわらず測定器の電源が入らない場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

3. 測定器の設定を確認します

測定器の電池を交換しても、測定器に記録された過去の測定記録や測定器の設定（日付・時刻を除く）には影響ありません。しかし、日付・時刻だけは、設定し直さなければならない場合があります。44ページを参照してください。

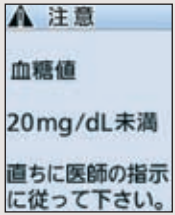
注意：使用中の電池を外してから約2分以内に新しい電池を装填しないと、電源を入れたときに日付・時刻設定の注意メッセージが表示されることがあります。この注意メッセージは約10秒後に消え、通常の画面が表示されます。
測定器を使用する前に必ず日付・時刻が正しいかどうかを確認してください。
日付と時刻の設定がご不明な場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

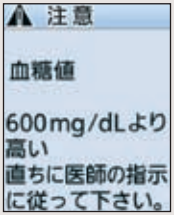
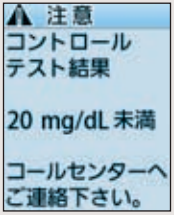
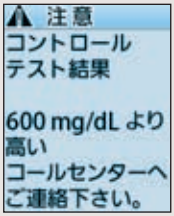
4. お住まいの地区の条例等にしたがって、使用した電池を処分してください

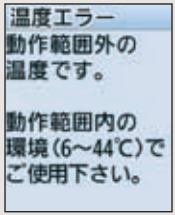
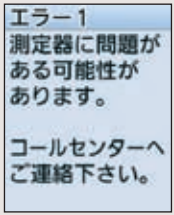
エラーメッセージとその他の画面表示について

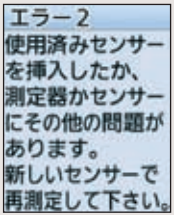
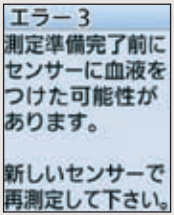
ワンタッチウルトラビュー™は、センサーや測定器に問題がある場合、測定結果が600 mg/dLより高い場合、または、20 mg/dL未満の場合などにメッセージが表示されますが、全ての問題がメッセージとして表示されるわけではありません。不適切な使い方をした場合には、メッセージが表示されずに正確でない測定結果が出る可能性があります。

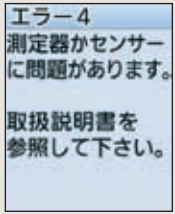
注意：画面に表示されるメッセージにしたがって対処しても、同じメッセージが再び表示される場合は、本書に記載されている対処法を実施するか、またはワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

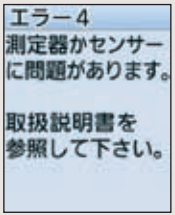
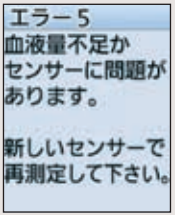
メッセージ	意味	対処法
	血糖値が20 mg/dL未満になっているおそれがあります。	**ただちに医師の指示にしたがってください。**

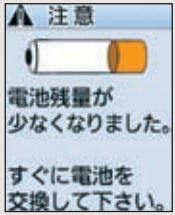
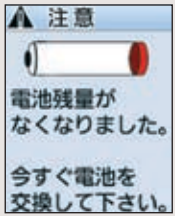
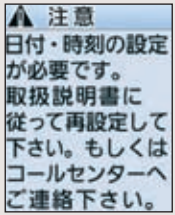
メッセージ	意味	対処法
	血糖値が600 mg/dLより高くなっているおそれがあります。	**ただちに医師の指示にしたがってください。**
	コントロールテストの結果が20 mg/dL未満です。	新しいセンサーを使って、再度コントロールテストを行ってください。同じエラーメッセージが再び表示される場合は測定器を使用せずに、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。
	コントロールテストの結果が600 mg/dLより高くなっています。	新しいセンサーを使って、再度コントロールテストを行ってください。同じエラーメッセージが再び表示される場合は測定器を使用せずに、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

メッセージ	意味	対処法
	測定器の温度が、動作温度範囲外（6℃未満、または44℃より高い）にあるので、正常に動作しません。	動作温度範囲内の場所に測定器とセンサーを置いて、数分間待ってから新しいセンサーを挿入してください。 同じエラーメッセージが表示されなければ、測定器の温度は動作温度範囲内になっています。 新しいセンサーを挿入しても、このメッセージが再び表示される場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。
	測定器に問題がある可能性があります。	この測定器は使用せず、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

メッセージ	意味	対処法
	使用済みのセンサーを測定器に挿入した、または測定器かセンサーに何か問題があると考えられます。	新しいセンサーを使って再測定してください。（20ページ以降を参照。） 同じエラーメッセージが再び表示される場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。
	測定準備が完了する前に、血液またはコントロール溶液をセンサーに点着した可能性があります。	新しいセンサーを使って再測定してください。血液の場合は血液点着画面が表示された後、コントロール溶液の場合はコントロール溶液点着画面が表示された後にセンサーに点着してください。 同じエラーメッセージが再び表示される場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。

メッセージ	意味	対処法
	**次のいずれかの問題が生じた可能性があります。**	
	動作温度範囲（6～44℃）の下限に近い温度環境において、測定結果が高いときに表示される可能性があります。	低い温度環境で測定を行っていた場合は、もう少し暖かい場所で、新しいセンサーを使って再測定してください。（20ページ以降を参照。）同じエラーメッセージが再び表示される場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。
	または、	
	センサーに問題がある、または測定中にセンサーを動かした可能性があります。	動作温度範囲内での常温または暖かい温度環境で測定を行った場合は、新しいセンサーを使って再測定してください。同じエラーメッセージが再び表示される場合は、<ワンタッチコールセンター>にお問い合わせください。
	または、	
	血液のつけ方（点着方法）が正しくなかった可能性があります。	血液のつけ方（点着方法）が正しくなかった場合は、20ページ以降に記載された点着方法を参照し、新しいセンサーを使って再測定してください。同じエラーメッセージが再び表示される場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。
	または、	
	<エラー4に関する情報は次のページに続きます。>	

メッセージ	意味	対処法
	測定器に問題がある可能性があります。	同じエラーメッセージが再び表示される場合は、ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。
	測定器がセンサーに問題があることを検出しました。センサーが損傷している、またはセンサーの確認窓が血液で完全に染まっていなかったことが考えられます。	新しいセンサーを使って再測定してください。血液のつけ方（点着方法）については20ページ以降を参照してください。

メッセージ	意味	対処法
	測定はできますが、電池残量が少なくなっています。	この電池画面が最初に表示されてから20回程度の測定を行うことができます。正確な測定結果を得ることができますが、できるだけ早く新しい電池に交換してください。
	測定を行うための電池が残っていません。	新しい電池に交換してください。
	測定器の日付と時刻を設定する必要があります。	日付と時刻を設定する必要があります。44ページを参照して設定するか、または ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。 この注意メッセージは約10秒後に消え、通常の画面が表示されます。

音による合図と警告

音を鳴らす設定を「入」にすると（38ページ参照）、特定の操作を行うタイミング、または、測定器、センサー、測定温度、測定手順、測定結果、電池などに問題が生じていることをお知らせするため、「ピッ」と音が鳴ります。

音はお知らせの内容によって異なります。

次のような場合には「ピッ」という音が1回鳴ります。
- センサーが挿入されて測定器の電源が入るとき。
- 測定器の点着準備が完了したとき。
- 血液またはコントロール溶液が検出され、カウントダウンが始まるとき。
- 測定の後に測定結果が表示されるとき。
- 電源が自動で切れる30秒前。

次のような場合には「ピッピッピッ」と音が連続して3回鳴ります。
- エラーメッセージが画面に現れるとき。
- 注意メッセージが画面に現れるとき。
- 測定結果が低い値（60 mg/dL以下）もしくは高い値（240 mg/dL以上）のとき。

測定器の測定結果と検査室の測定結果の比較

ワンタッチウルトラビュー™自己検査用グルコース測定器（測定器）に表示される測定結果は、血漿グルコース濃度に換算した値が表示されます。これにより、測定器の測定結果と検査室での測定結果とを容易に比較することができます。測定器が表示する測定結果は、全血グルコース濃度に換算した値を表示する測定器に比べて、約12%値が高く表示されます。

測定器の測定結果と検査室の測定結果はいずれも血漿グルコース濃度に換算した値で表されます。ただし、測定器の測定結果と検査室の測定結果は、外的因子により差が生じることがあります。検査室の測定結果に影響しない測定要因または測定条件であっても、測定器の測定結果に影響をおよぼすことがあります。

測定器に表示される測定結果は、検査室の測定結果の±20%以内に入っていれば、正確であると考えられます。しかし、以下のような状況では測定結果が±20%の範囲を超える場合があります。

- 食直後指先から採取した血液は、検査室測定に使われる静脈血よりも、血糖値が最大で70 mg/dL高くなることがあります。[1]
- ヘマトクリット値（血液に占める赤血球の容積を示すパーセンテージ）が高い場合（55%を超える）、または低い場合（30%未満）。
- 重症の脱水症状を起こしている場合。

[1] Sacks, D.B.: “Carbohydrates.” Burtis, C.A., and Ashwood, E.R. (ed.), *Tietz Textbook of Clinical Chemistry*. Philadelphia: W.B. Saunders Company (1994), 959.

精確さや同時再現性に関する情報は、LFSクイックセンサー®の添付文書にある「性能」や「使用上又は取扱上の注意」もあわせて参照してください。

測定器の測定結果と検査室の測定結果を正確に比較するには、以下をご留意ください。

病院へ行く前に：

- コントロールテストを行い、測定器が正しく機能することを確認してください。
- 採血前は、少なくとも8時間は食事をしないでください。
- 使用している測定器を病院にご持参ください。

検査室では：

- 検査室で測定してから15分以内に測定器で測定を行ってください。
- 必ず指先から採取した新鮮な毛細管血を使用してください。
- 抗凝血剤が必要な場合はヘパリンを使用し、サンプルは10分以内に測定してください。ヘパリン以外の抗凝血剤や保存剤は使用しないでください。
- 測定器で血糖測定を行うときには、本書の記載事項にしたがってください。

トラブルシューティング

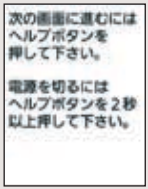
	考えられる原因	対処法
センサーを挿入しても測定器に何も表示されない場合：	電池が切れている。	電池を交換してください。
	電池が装填されていない、または電池が正しく装填されていない。	電池が正しく装填されているか確認してください。電池はプラス（+）とマイナス（-）の記号を目印にして装填してください。
	センサーが正しく挿入されていない、またはセンサーが完全に挿入されていない。	センサーは、3本のコンタクトバーのある面を手前に向けて挿入してください。また、センサーは奥まで押し込んでください。
	測定器またはセンサーに問題がある。	ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。
センサーに血液を点着しても測定が始まらない場合：	点着した血液量が不足していた。	点着する血液量を多くし、新しいセンサーを使って再測定してください。血液は必ず、センサーの血液吸引部分にある細い溝に点着してください。

<次のページに続きます。>

	考えられる原因	対処法
センサーに血液を点着しても測定が始まらない場合：	センサーに問題がある。	新しいセンサーを使って再測定してください。
	自動的に電源が切れた後にセンサーに血液を点着した。（血液点着画面が表示されている状態で測定器を3分以上放置すると電源は自動的に切れます。）	新しいセンサーを使って再測定してください。血液は必ず、血液点着画面が表示されている間に点着してください。
	測定器に問題がある。	ワンタッチコールセンターにお問い合わせください。
ヘルプ（ヘルプボタン）を押した後に操作説明画面が表示されない場合：	ヘルプ を約2秒間押し続けていない。	ヘルプ を約2秒間押し続けてください。
入力（入力ボタン）を押した後にメインメニュー画面が表示されない場合：	測定器にセンサーが挿入されている。	センサーを排出して 入力 を押してください。

ヘルプ画面（操作説明画面）

ワンタッチウルトラビュー™のヘルプ画面で表示される画面は次のとおりです。
注意：ヘルプボタン設定で「測定記録の呼出」を選択している場合は、 ヘルプ を押すとヘルプ画面の代わりに前回の測定記録が表示されます。



穿刺器具の準備

注意：ヘルプボタン設定を「穿刺表示・あり」に設定している場合は、これらの画面が表示されます。

センサーの挿入とコード番号の確認

採血と点着

注意：ヘルプボタン設定を「穿刺表示・あり」に
設定している場合は、これらの画面が表示されます。

測定結果の確認

センサーとランセットの廃棄

注意：ヘルプボタン設定を「穿刺表示・あり」に
設定している場合は、これらの画面が表示されます。

仕様

測定範囲	20～600 mg/dL
測定値	血漿グルコース濃度に換算した値で表示
検体	新鮮な毛細管全血
検体量	1 μL以上
測定時間	約5秒間
測定方法	グルコースオキシダーゼ電極法
血糖値の測定単位	mg/dL
メモリー機能	測定結果またはコントロールテスト結果を最大600件まで記録
自動切電機能	前の操作から3分後
寸法	102（高さ）× 54（幅）× 32（奥行）mm
重量	約90 g（電池を含む）

動作範囲	温度：6～44℃ 相対湿度：10～90% 高度：3,048メートル以下 ヘマトクリット値：30～55%
測定器電源	単4アルカリ乾電池2本
電池定格：	ワット：0.15 W 電流：70mA 直流 ⎓
電池の寿命	約540測定（1日3回の測定で約6ヶ月間）

電気・安全規格

本製品は、適用可能な国際電磁エミッション（放射）の要求事項を満たしています。本製品の放射エネルギーは低レベルであり、周囲の電子機器の干渉発生原因となる可能性はほとんどありません。

本製品は、IEC 61000-4-2に規定された静電気放電に対するイミュニティ（耐性）について試験済みです。本製品は、ISO 15197に規定された周波数範囲および試験レベルにおける無線周波数干渉に対するイミュニティ（耐性）について試験済みです。

上記の電磁両立性（EMC）に関する要求事項への適合は、本製品が通常の日常環境で他の装置の動作に支障をきたさないことを意味します。加えて本製品が他の装置が存在する通常の家庭環境で正常に作動することを意味します。

本製品と他の装置との間で干渉が生じる場合は、干渉問題を解決するために、本製品をその装置から遠ざけるか、その装置の電源を切ることをお勧めします。

保護等級：IPX1

注意：パソコンに接続された状態で本製品の安全作動を徹底するため、しかるべき安全認可が下りたパソコンを使用しなければなりません。この安全認可は測定器に接続されている機器（パソコン、モニター等）に表示されたロゴ（ⓤ、、または CE）からわかります。

パソコンが電源に正しく接続されていることもあわせて確認してください。

注意： 感電を防ぐためUSBケーブルで本製品がパソコンに接続されているときは、センサーを挿入しないでください。

保証

3年間保証

ご購入からワンタッチウルトラビュー™（測定器）に故障が生じた場合、3年に限り無償でお取替えいたします。次のような場合は保証期間内であっても有償となります。

1. 使用上の誤り、不当な修理により生じた故障、損傷
2. 火災や地震などの天災・地変による故障、損傷
3. 購入後の移動・輸送などによる故障、損傷
4. 電池の損傷または故障
5. その他当社の責によらない故障、損傷
6. お客様登録カードのご提出がない場合

索引

エラーメッセージ.....38, 68〜74
音（「ピッ」という音）.....38
音による合図（「ピッ」という音）.....38, 75
温度.....8, 55, 62, 70, 72, 84
温度エラーメッセージ.....70
確認窓.....3, 21, 58
画面の明るさ.....38
画面の確認.....vi, 4
感染、感染予防.....14
血漿グルコース濃度換算.....76, 83
血糖値指標.....27, 46
高血糖メッセージ.....29, 35, 69
高コントロールテストメッセージ.....60, 69
コード番号.....11, 51, 57
コントロール溶液.....viii, 55
コントロール溶液、許容範囲.....59
コントロール溶液、使用期限.....62, 63
コントロール溶液、処分日.....62
コントロール溶液、測定.....55
コントロール溶液、保管.....62
コントロール溶液、保存.....62
最近の平均値.....35
時刻の設定.....44
仕様.....83
初期設定値に戻す.....53
センサー、確認窓.....3, 21, 58
センサー、血液をつける（点着）.....20
センサー、コンタクトバー.....3, 10, 57
センサー、使用期限.....62, 63
センサー、処分日.....62
センサー、廃棄.....31
センサー、保管.....62
設定.....37
穿刺.....17, 23
穿刺器具、穿刺深度調整.....13, 18, 25
前腕.....14〜16, 23
前腕での採血、重要なお知らせ.....14〜16
前腕での測定手順.....23
測定器セットの付属品.....ix
測定器と検査室との測定結果の比較.....76
測定器と穿刺器具のお手入れ.....63, 64
測定器の電源を入れる、測定.....4, 10
測定器の電源を入れる、
測定結果の閲覧.....4, 33
測定器の電源を切る.....5, 31
測定器の保管.....62
測定器のボタン.....2, 3
測定結果、過去の測定記録を閲覧する.....33

測定結果、画面 27, 34
測定結果、すべて 34
測定単位 2, 28, 59, 83
測定手順 17, 23
脱水症状 29
低血糖 16
低血糖メッセージ 29, 35, 68
低コントロールテストメッセージ 60, 69
電池 65
電池画面 65, 74
電池残量不足メッセージ 65, 74
透明キャップ ..... viii, 13, 23
トラブルシューティング 78
始めに測定器に表示される画面 ..... vi, 4
日付の設定 44
平均値、過去7日間、14日間、30日間 35
ヘルプ機能・ヘルプ画面 ..... 6, 80〜82
保証 86
丸みをおびた血液を出す 19, 26
mg/dL 2, 28, 59, 83
メインメニュー画面 4, 33, 39
指先での測定手順 17
予期せぬ測定結果 29, 30, 55
予期せぬ測定結果が繰り返しでる場合 30
ランセット、穿刺器具への挿入 17, 24
ランセット、廃棄 31
ランセット、保護キャップ 13, 17, 24, 31
ワンタッチウルトラソフト™ ..... viii, 13, 17, 23

メモ

時刻	医師が設定した 血糖値目標範囲
朝食前	
昼食または夕食前	
食後1時間	
食後2時間	
午前2時から午前4時の間	

メモ

メモ

メモ

メモ

本製品に関するお問い合わせ先

ワンタッチ コールセンター

0120-113-903

24時間365日

携帯電話・PHSからでもかけられます。

Johnson & Johnson K.K.

LIFESCAN
a Johnson & Johnson company

© 2009 LifeScan, Inc.
Rev. date: 02/2010

AW 06507403B

ワンタッチウルトラビュー™
製造販売業者：ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社
東京都千代田区西神田3丁目5番2号

承認番号
ワンタッチウルトラビュー：22000BZX00192000
ワンタッチウルトラソフト ランセット：21500BZY00001000
LFSクイックセンサー：21400AMY00194000

届出番号
ワンタッチウルトラソフト：13B1X00204ML0001

2009年10月発行 取扱説明書の内容は予
告なく改訂される場合があります